

区部ユース・プラザ基本構想検討委員会第1回における主な御意見の概要

【区部と多摩の役割分担について】

- 高尾の森わくわくビレッジと東京スポーツ文化館で、東京都として明確な使い分けや特徴分けがあれば伺いたい。
- 役割分担も含めた大括りの議論が必要。

【施設が今後担っていく役割について】

- 中学生や高校生もしくは教育に携わる方々が、その役割をどう認識し、どういう施設だと理解した上で利用していくのかを考えることも重要。その点をどう現場と連携を取りながら行うかが、一つの論点になる。
- スポーツ施設・文化施設ともに青少年を中心に高い稼働率・使用率があるので、こういったニーズは受け止めていかなければならない。
- 青少年を対象とした社会教育施設の目的や役割が、体育館やプールがある箱物の機能とは別に、どのように達成しているのか気になる。
- あり方を考えていく上で、青少年を対象とした社会教育施設としての未来に向けた役割をどのように果たしていくのか、機能部分と重ねあっているかなければならない。

【特別支援学校の利用について】

- 特別支援学校では、肢体不自由で車椅子の子や、離乳食のようなものではないと食べられない子が多いが、そういった食事を出してくれる施設は非常に限られる。区部はそれに対応しており、部屋も比較的余裕を持った形で取れるので非常に使いやすい。
- 区部は、立地条件として臨海部施設の足場として使われていると思われる。多摩では、野外施設の使用やミニ講座で何か物を作る体験活動を行うので、区部と多摩とは使い方が違う。
- 学校では施設を利用しているが、本来なら学校外の交流の場や、色々な人たちと関わる場にもなるといい。

【コンセプトについて】

- 館の今の名称はスポーツや文化を全面に出すものになっており、スポーツや文化の活動ができる施設ということが一つの売りになってきた面もあるが、一方でスポーツや文化のための施設である必要はないだろう。
- スポーツや文化の活動もできるという立て付けで、より上位のコンセプトが求められている時期に来ている。スポーツや文化を用いて何ができるのか、そういったコンセプトが社会教育事業とか、これからの子供、若者という中で議論できるといい。

【今後求められる視点について】

- 都の施設として、区市町村と役割分担をどう図っていくのかの視点と、学校教育の視点が必要。特に特別支援教育。今インクルーシブ教育ということで、各学校に特別支援学級が設けられ、各学校でかなり苦勞されている。そういった点も含めて施設の役割を考えていくというふうに大きな視点で考える必要がある。
- スポーツ施設はかなり稼働率が高いということで、おそらくリアルな活動の場というところですごくニーズが高い形になっていると思われる。デジタルとリアルな場との役割分担も考えながら、都の施設をどうしたら良いかというところも視点として置く必要がある。